

研修参加報告書

令和 5年10月19日

会 派 名 江南クラブ
会派代表者 稲山 明敏

参加者：藤岡 和俊

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年 月 日	令和5年10月2日（月）～3日（火）
研修時間	13:15～16:35 9:00～12:20
研修場所	全国市町村国際文化研修所（JIAM）
研修内容	令和5年度 トップマネジメントセミナー 講師：千田 嘉博 氏 名古屋市立大学特任教授 奈良大学文学部文化財学科特別教授 服部 圭郎 氏 龍谷大学政策学部政策学科教授 梶山 葉月 氏 料理家・フードコーディネーター 清原 慶子 氏 杏林大学客員教授、こども家庭庁参与、前三鷹市長

研修参加報告書

年月日	令和5年10月2日(月) ~ 3日(火)
研修時間	13:15~16:35 9:00~12:20
研修場所	全国市町村国際文化研修所(JIAM)
研修内容	令和5年度 トップマネジメントセミナー 講師：千田 嘉博 氏 名古屋市立大学特任教授 奈良大学文学部文化財学科特別教授 服部 圭郎 氏 龍谷大学政策学部政策学科教授 梶山 葉月 氏 料理家・フードコーディネーター 清原 慶子 氏 杏林大学客員教授、こども家庭庁参与、前三鷹市長
■目的	「まちづくり」をテーマに、様々な分野の第一線でご活躍の方々の講演を聞き、改めて地域を見つめ直すとともに、地方議員に求められる役割について多角的に考える機会とする。
■内容	研修1日目 13:15~14:45 演題：城跡を活かしたまちづくり 講師：千田嘉博氏(名古屋市立大学特任教授、奈良大学文学部文化財学科特別教授) 健全者しか楽しめないような城郭整備はダメだと一刀両断されました。障害者を含め、誰でもが体感できることの大切さを説かれていました。 日本各地の健全者しか体感できない施設も示されましたが、確かに残念な気持ちになりました。 ヨーロッパの視覚障害者が手で触って体感できる立体模型等の紹介には納得できました。音声ガイド付きです。 千田氏からは、7月2日に犬山市で『犬山城の魅力と小牧・長久手の戦い』と題した講演を聞きました。

その際は犬山城の魅力に関する話が多かったため、バリアフリーに関する話は少しでした。そのため本日の講演でその質問をしようと思っていましたが、講演の中でわかりやすく伝えていただきました。

これからのまちづくりには、ユニバーサルデザインやバリアフリーの考えが必要だということが再確認できました。

○大和郡山城の悲惨な史跡整備（極楽橋；車いすでの通り抜けはできない）

史実にはない石段を設けて、車いすは絶対に通れない復元＝健常者だけが城の歴史的な大手道を体感できればよいという柳澤文庫・奈良県・大和郡山市の意識である。

○高松城・桜御門

史跡整備において多様性を一切尊重しない高松市役所。アクセシビリティの意識ゼロである。

外国には視覚障害者が手で触って体感できる立体模型があり点字や音声ガイドもあるそうです。すべての人に歴史が体感できる施設にすべきだと思いました。

15:05～16:35

演題：ヨーロッパの取組から学ぶ豊かなまちづくり

講師：服部圭郎氏（龍谷大学政策学部政策学科教授）

都市・地域アイデンティティの強化、異和共生型まちづくり、自動車以外の交通手段の充実、自動車から解放された歩行者空間、レジリエントな都市づくりについて、実例をあげてわかりやすく説明をしてくださいました。

人々に選んで来てもらうには、市のアイデンティティが重要だということがよくわかりました。

研修 2 日目

9:00～10:30

演題：食（ローカルフード）による地域づくり

講師：梶山葉月氏（料理家、フードコーディネーター）

秘密のケンミン SHOW で 17 年間に渡り 600 食以上の郷土料理を作ってこられた方です。

次世代に郷土料理を伝えるために大切なこととして、

(1)知る機会のハードルを下げる。

→SNS の活用。今や SNS は若い世代のツールだけではなく、世代を超えたツール。

(2)作る機会のハードルを下げる。

→お皿などに洋風な食器を使うなどして、カジュアルに郷土料理を取り入れることによって郷土料理を生活の一部にする。また、シチュエーションによって少し工夫するだけで、郷土料理を作るハードルがぐっと下がり、親しみやすくなる。

(3)食べる機会のハードルを下げる。

→コロナ禍で地元に戻った人は、子どもの頃から慣れ親しんだ郷土料理を食べる機会が増えた。新たな地方に移り住んだ方は新たな郷土料理に出会うチャンスになる。

江南市の郷土料理は何かと考えました。食文化は大切な文化であると思います。食でのまちづくりも大切であると感じました。

後日梶山氏と連絡をとり、越津ねぎを使った料理について相談をしていきたいと思っています。

10:50~12:20

演題：こどもまんなかまちづくり～こども家庭庁の設立とこども基本法の施行～

講師：清原慶子氏（杏林大学客員教授、こども家庭庁参与、前三鷹市長）

話し方が上手く、どんどん引き込まれていきました。

こども基本法（議員立法）の基本理念には、「愛される」とか「夢を持ち」といった言葉が出てきます。このような言葉が入る法律は初めて。

市町村こども計画の策定は努力義務となっている。これは執行部が策定するとは書いていない。

『心身の発達過程にある者』をこどもと定義しており、年齢は書かれていない。こどもの年齢及び発達の程度に応じ、その意見を尊重し、その最善の利益を優先して考慮することを基本としています。

こども家庭庁の基本姿勢は、

(1)こどもや子育て中の方々の視点に立った政策立案

(2)地方自治体との連携強化

(3)様々な民間団体とのネットワークの強化

である。

こどもまんなかまちづくりが目指すPDCAの推進

(1)こどもを産み、育てることを経済的理由であきらめない。

(2)身近な場所でサポートを受けながらこどもを育てることができる。

(3)どのような状況でもこどもが健やかに育つという安心感を持てる。

(4)こどもを育てながら人生の幅を狭めず、夢を追いかけられる。

江南市でも、こども家庭庁の誕生を受けて組織再編が予定されています。地方自治体との連携を強化すると言われていたので、江南市も連携をしていく必要があると感じました。

■所感

今回はまちづくりをテーマにしたセミナーであり、どの講師の話もとても魅力的でした。セミナーで拝聴した話を参考に、今後の江南市のまちづくりについて考えていきたいと思いました。